

予算・決算特別委員会

日時：令和2年5月11日（月）

常任委員会終了後

場所：第1委員会室

1 最終報告について

2 その他

予算決算特別委員会最終報告

「良かった点」

- ・テーマを絞ることで議案に対する理解が深まった。
- ・重要案件を事前に抽出し議論するため有意義な審査となった。
- ・決算審査において、重要案件シートを活用し、事前に事業内容の確認ができたことがよかった。
- ・決算審査において重要案件を選定し、集中審査することで提言に結び付けられたことはよかった。
- ・予算審査において、重要審査項目を決め、論点を集中させて議論できたことはよかった。
- ・分科会において事前打ち合わせを重ねた上で分科会に臨んだため共通認識をもって審査できた。
- ・議案質疑において、分科会所管部分についても議案質疑ができ、その後の分科会でも深い審査ができた点は良いと思った。
- ・会派として行っている議案に関する事前協議が分科会で行われるようになったことは新たな取り組みとして評価できる。

「今後の課題」

課題：決算から予算へつなげる流れが定着すれば、より充実した委員会討議ができるのではないかと考える。

対策：決算審査において、予算審査へつなげることを意識して分科会、全体会で委員会討議し審査、提言につなげるようにつとめる。

課題：煩雑(はんざつ)にならないように委員会の審査方法を工夫する必要がある。

対策：今後、PDCAを繰り返していく中で、委員会の審査手法について議論し、議員のみならず当局側から見てもわかりやすい審査手法になるようにつとめる。

課題：分科会と全体会の役割を精査し政策提言につなげることができれば今後も意味のある活動といえる。

対策：分科会と全体会の役割を見える化しておく必要がある。

課題：各会派の視察で学んだ先進事例について、委員会の中で情報共有することについて、今後取り組むべきである。

対策：政務活動において得た知識は、必要に応じて、分科会、全体会の中で情報共有するようにする。分科会長、委員長は、必要な情報であれば、自ら情報の提供をお願いする。

課題：全体会への当局参加についても検討すべき

対策：予算決算特別委員会を設置する時、全体会では当局側の参加を求めないという条件をお互いに了承した上で設置している。今後必要であれば、委員会内で協議を重ね、当局参加が必要か検討したうえで、必要であれば参加を依頼していく。

課題：全体会審査の際、その担当部署が全体会出席して説明をすべきと考える。

対策：当局との協議が必要である。

課題：日程について付託されてから全体会審査まで時間がなく、事前に資料を集めることができず審査までに調査しきれない状況だった。

対策：議会全体のスケジュールも関係するが、全体会開催をどれだけ最終日近くにできるか、検討する必要がある。しかし、最終日に近くなればなるほど、委員長報告作成の時間がなくなるため、その点についての課題解決が必要となる。

課題：予算に係る事業の事業シートについては、参考資料として上程と同時にあっても良いと考える。そのことによって、質疑の時間短縮につながると考える。

対策：事業シートについてはこれまで当局側で取り組んでいる経緯があるため、早期の完成をお願いしたい。

課題：今後も基本的には現在の形で進めていき部分修正しながら、当局の理解、協力を得ながら進めていく必要がある。

対策：議会だけが改革をすすめても、市全体が同じ足並みで進まなければ意味がないため、常に理解が得られるように、情報の発信、協議していく必要がある。

以上、良かった点、また、今後の課題と課題に対する対策を次回予算決算特別委員会が設置された場合の委員会への申送り事項とさせていただきます、最終報告とします。